

びより つしん日和

Vol.121
2026.7

企業紹介

チゼル製造メーカー

オサカダツール株式会社



代表取締役 牧 明奈氏



▲高い耐久性を実現するため、素材処理から仕上げまで丁寧に行われる製造工程。品質を左右する重要な作業が続く。



▲岩石やコンクリートの破碎作業に使用されるチゼル。重機の先端に装着し、国内外の多様な現場で使用されている。



○オサカダツール株式会社

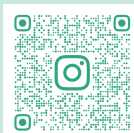
岡山県美作市檜原下135-1

☎0868-72-1466

図9:00~18:00

休土曜・日曜・祝日

インスタ
グラムは
こちら



高品質な熱処理技術が生むチゼルで
世界に信頼される破碎工具メーカー

きた技術力により、国内外から厚い信頼を集めている。

「オサカダツール株式会社」(美作市檜原下)は、1966年の創業以来、半世紀以上にわたり熱処理技術を磨き続けてきたチゼル専門メーカー。チゼルとは、電動ハンマーや油圧ショベルの先端に装着し、岩石やコンクリートを破碎するための工具で、建設・土木工事や災害復旧の現場で欠かせない存在だ。美作市はチゼル発祥の地として知られ、その伝統を受け継ぎながら技術を発展させてきた。

創業以来こだわり続けてきた熱処理技術も大きな強みだ。焼き入れと焼き戻しの工程管理を徹底し、全製品の硬度検査を行うことで、安定した品質を実現している。OEMからオーダーメイドまで柔軟に対応し、水中作業や高所破碎など特殊環境用の特注品にも応える。

現在、同社の製品は国内のみならず、アジア・中東・北米など世界各地でも使用され、その品質と耐久性が高く評価されている。国内でチゼルを一社完結で生産できるメーカーはわずか3社のみ。同社はその中で国内2位の実績を持ち、長年培って

また、同社が開発した「スリットチゼル」は、刃先に設けた隙間(スリット)によって破碎効率を高める構造が特徴で、耐久性と作業効率の向上を実現している。この技術が評価され、2025年に国土交通省が運営するNETIS(新技術情報提供システム)に登録されており、各種工事現場での活用が進んでいる。

長年培った技術と誠実なものづくりを基盤に、同社はこれからも世界の現場を支え続ける。

新築・リフォーム

株式会社山根工務店



代表取締役 上田 義徳氏



▲地震に強い構造と高い断熱性を備えた、庭へ繋がる開放的な家。外の暑さと寒さを遮り、一年中安全で快適な暮らしを実現。



- 1.当社が施工した「塩元帥 津山市河辺店」の内装。住宅で培った高い技術力を活かし、商業施設の施工にも取り組んでいる。
- 2.事務所の中で、専門知識を持つ「住宅医」とじっくりと面談。家作りの不安を解消できる。

長く健康に暮らすために
ユタカナクラシの家作りを提案

株式会社山根工務店（津山市東一宮）は、昭和60年の創業以来、地域の暮らしに寄り添いながら、安心して長く住める家作りを続けている建築会社。

家作りで重視しているのは、安心・快適・長寿命の3点。地震に強い構造を標準とし、火事の際にも燃え広がりにくい安全性を確保している。

また、外の暑さや寒さを家の中に伝えにくい断熱性と、隙間風が入りにくい気密性を高めることで、一年中心地よく過ごせる住まいを実現している。

「私たちは家を作っているだけではありません。ユタカナクラシ」作りを通じてお客様の人生に寄り添うことが使命です。」と代表取締役の上田氏は語る。人生100年時代を

見据え、住まいも人と同じように長く健康でいられる器であるべきと考え、お客様の悩みやこだわりに丁寧に耳を傾ける姿勢が特徴だ。

新築だけでなくリノベーションにも注力しており、岡山県に3名しかいない「住宅医」による参加無料のリフォーム相談会も実施している。住宅医とは、医師のように家の状態を診断し、最適な直し方を提案できる専門家のこと。

さらに、住まいだけでなく、商業施設の施工にも取り組んでおり、直近では、「塩元帥津山市河辺店」の施工を手がけた実績を持つ。住宅で培った丁寧な施工力を生かしながら、使いやすさと居心地の良さを両立した空間作りに取り組んでいる。

こうした取り組みを通じて、地域の暮らしを支える存在として、今後も丁寧な家作りを続けていく。



○株式会社山根工務店

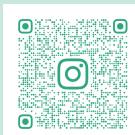
津山市東一宮83-9

☎0868-27-2755

🕒8:00～17:00

📅GW・お盆・年末年始ほか

Instagramは
こちら



「第39回 つしんさくら会日帰り旅行」を実施しました

5月15日(金)、20日(水)、21日(木)、22日(金)の4日間、当金庫で年金をお受け取りいただいている方を対象とした「第39回 つしんさくら会日帰り旅行」を実施しました。

今年は、京都市東山区にある南座での歌舞伎鑑賞教室をメインに、三十三間堂の見学や、LEUN 鮎鶴京都鴨川リゾート「川床」での昼食、そし

て京都ハンディクラフトセンターでのお買い物など、京都の魅力を満喫していただきました。

4日間を通じて約300名の皆さまにご参加いただき、参加者の皆さまからは、「はじめて歌舞伎を見ることができ、奥深さを味わえた」「また来年もぜひ参加したいです」など、沢山のお喜びの声をいただきました。



「第64回 岡山県信用金庫野球大会」に出場しました



4月11日(土)、倉敷マスカットスタジアムにて「第64回 岡山県信用金庫野球大会」が開催され、当金庫野球部が出場しました。

一回戦の古備信用金庫との試合では、2点ビハインドの展開でしたが、6回裏に粘り同点に追いつき、タイブレークの末に勝利しました。続く二回戦の備前日生信用金庫との準決勝では、惜しく

も敗れてしまいました。が、選手たちは最後まで力を出し切りました。

また、当金庫野球部は、有限会社スポーツ・シヨップ・ムサシ様に協力いただき、オリジナル刺繍入りミットを製作しています。日頃の練習から使用しており、今大会でも活躍しました。

これからも練習を重ね、次の大会に向けて頑張っていきます。

Tースタにて「人手不足対策セミナー」が開催されました

4月14日(火)、Tースタにて「人手不足対策セミナー」が開催されました。

当日は、ヒューレックス株式会社様(幹部・管理職人材の採用支援)、株式会社タイミー様(スキマバイトサービスの提供)、株式会社YOLLO JAPAN様(外国人人材の採用支援)の3社を講師としてお招きし、多様化する人材確保の手法

や、採用市場の最新動向についてご講演いただきました。

参加者の皆さまは、各社の採用事例や採用成功のポイントに熱心に耳を傾け、人手不足解消に向けた具体的なヒントを得る機会となりました。

参加者からは「採用手法の選択肢が広がった」「自社の課題解決に役立つ内容だった」といった声が寄せられました。



「第20回 東京発！ 物産・逸品見本市」に参加しました



5月18日(月)～22日(金)の5日間にわたり、都内で開催された対面販売会「第20回東京発！物産・逸品見本市」に、当金庫お取引先の「株式会社曲辰様」と「松野屋食品株式会社」様がブースを出展されました。

本販売会は、西武信用金庫と東京都商工会連合会の主催により開催されているもので、新宿駅西口広場イベントコーナー

を会場に、全国33の信用金庫と西武信用金庫のお客様が集結し、地域の逸品を販売する催しです。曲辰様は「岡山甘栗の焼き栗」を、松野屋食品様は「生栗きんとん」を出品され、各ブースには多くの人が訪れており、終日賑わいを見せていました。本販売会は、地域の魅力と特産品を広く発信する機会になっています。

～VIVA野球！～

理事長 寺尾 由久



作州地域の皆様、こんにちは。津山信用金庫の理事長・寺尾由久です。

巷にはクラブ活動が盛んな企業も多々ありますが、津山信用金庫にも野球部と弓道部があります。特に野球は信用金庫業界を挙げて盛んで、春には岡山県の信用金庫大会、秋には各県大会を勝ち上がった信用金庫による中国地区の大会があります。残念ながら今年の当金庫チームは、県大会の準決勝で敗退、中国地区大会にコマを進めることはできませんでしたが、野球部員と有志応援団職員が目標に向けて心を一つにする試合を見るたびに清々しい感動をもらっています。

ところで、最近つくづく思うのですが、野球はとてもユニークなスポーツなのではないかと…。まずはルールが難しい。野球を全く知らない人が「振り逃げ」や「インフィールド・フライ」のルールを理解することは至難の業ではないでしょうか？それからビジネスとして優れています。年間200試合近くも興行を打てるスポーツは、なかなかありません(ポストシーズンやオープン戦を含めた年間試合数は、日米とも180～200試合程度)。そして、競技場(野球場)の大きさやフェンスの高さが区々(まちまち)であっても、誰も気にしていません。サッカー場やラグビー場の広さが、地域で違うなど考えられませんが、野球はそれが許容されています。そして何より、お酒との相性がとても良いです。青空の下、生ビールとつまみを頂きながら見る試合は、まさに「至福」ですね。

弓道部については、また後日…

公式Instagram
つやつや
『津山信用金庫』

フォロー&いいね
お待ちしております！



LINEの
お友達登録も
お願いします！



※つしん日和に関するご意見・お問い合わせは当金庫HP「お客さまの声」からお願いいたします。
編集発行:事業所応援部
TEL:0868(22)4136
FAX:0868(22)8637
MAIL:s1735017@facetoface.ne.jp
(つしん日和第121号:2026年6月25日発行)